

花と緑のおもてなしプロジェクト

東京港埠頭株式会社公園事業室公園事業課維持管理係

早 貸 秀 樹

2020年夏に東京五輪の開催が決定し、花き関連業界をはじめ様々な業界の方々におかれましては、この千載一遇の機会に向け様々な取り組みを始められていることと存じます。

そのなかで、都立公園等を管理運営している東京港埠頭株式会社を中心となり、競技会場が多く立地する臨海地区にあるシンボルプロムナード公園を活用した「花と緑のおもてなしプロジェクト」を立ち上げ、活動を行ってまいりました。その取り組み内容についてこの場をお借りして、ご報告をさせていただきます。

花と緑のおもてなしプロジェクトとは

2020年に開催される東京五輪の際に、競技会場が多く立地するお台場周辺を訪れる人々の目を楽しめるため、東京臨海部にある都立シンボルプロムナード公園内の「夢の広場」にて、企業や生産者との協働により花き園芸技術を集結した魅力的な「おもてなし花壇（夏花壇）」を造り、その中で蓄積したノウハウを広く発信するとともに、6年後に活かしていこう！ という取り組みです。

（日本経済新聞7月4日掲載、日本農業新聞7月8日掲載などで情報発信を実施。）

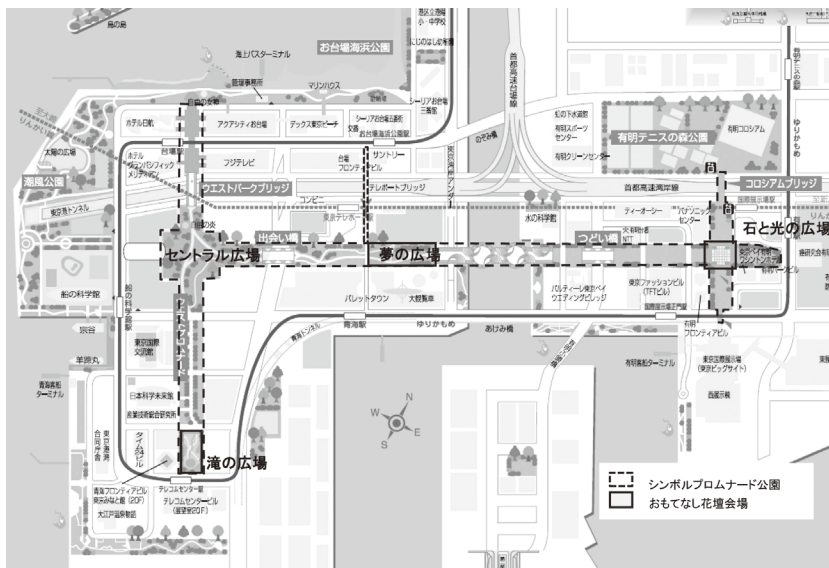
おもてなし花壇

本プロジェクトの柱となる「おもてなし花壇」は、地植えならではの実践的な試験活用が可能であると考え、五輪開催予定の真夏でも安定した修景が可能な花苗の選定など生育試験を行う「トライアル花壇」と優れた品種として評価された花苗を実際に活用し利用方法などをユーザーへ提案・アピールする「修景花壇」で構成されます。このように目的を分けて今年の3月から参加者の募集をした結果、14団体にご賛同をいただき、夢の広場では18の花壇が制作されることになりました。この「夢の広場」の他にもシンボルプロムナード公園内「滝の広場」の池面やビッグサイト近くの「石と光の広場」にある花壇用地も活用し生育試験などを実施しました。

花壇は公共の場に制作・展示されるため、事前に事務局によるデザイン画の確認を経て5月下旬～6月下旬にかけて一般ボランティアの協力も得ながら制作されました。あいにく梅雨の時期だったこともあり、雨の降りしきる中での花壇制作という事が多々ありました。

おもてなし花壇の出現により、夢の広場はそれぞれの花壇が一体となりダイナミックな景観修景を展開す

ることが出来たほか、関東地域花き普及振興協議会（関東10都県の花き生産者、行政、流通団体等から構成）の花きセミナーの現地視察や東京都農業改良普及センター普及指導員の研修に活用されるなど、「夏花壇の拠点」として皆さんに認知されつつあります。



おもてなし花壇会場図

花と緑のおもてなしプロジェクト 花壇配置図

日本で初めての企業協働による大規模な夏花壇を展示。
陽ざしあふれる夏、匠の技で美しく咲き誇る花たちで彩られた夏花壇が、
まさに彩りを添えるほか、潤いのあるライフスタイルの提案も行います。

○ おもてなし花壇づくり

「修景花壇」と「トライアル花壇」の2種類の花壇を約2,000㎡で展開！

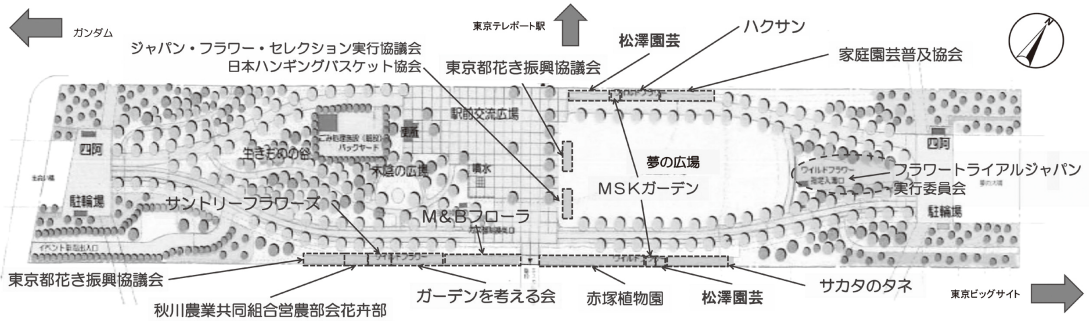
修景花壇 4か所 43区画

- 耐暑性がある推奨品種の苗を活用し、実際の利用方法などを提案・アピールする花壇。
- 皆さまに生育過程も見て頂くため、各植物個体が1/3以上枯損するまでは経過観察。
- 見栄えとアピールを重視するため、各団体の判断で補植や代替え苗による植替えを実施。

トライアル花壇 2か所 18区画

夏場の過酷な生育環境に対し、適合した苗を選定するための育成試験を行う花壇。

- 基本的には各植物個体が半分以上枯損するまでは、手を加えず経過観察。
- 半分以上枯損した場合は、同じ植物による補植か代替え苗による植替え。



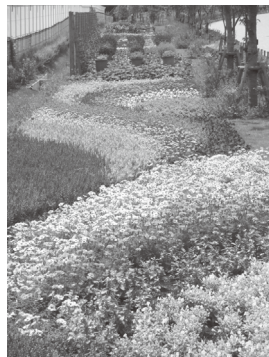
夏を爽やかに！スポーツ&フラワーフェスタ ～美しく修景された公園で心身ともにリフレッシュ！～

2014年8月2日（土）・3日（日）10:00～16:00

スポーツと花やみどりが融合した多彩でダイナミックな参加型イベントを、シンボルプロムナード公園「夢の広場」で開催します。イベントを通して2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてスポーツ振興を図るとともに、日本の優れた花き園芸 技術に培われた花やみどりの文化に触れていただくことで、臨海副都心の賑わい創出と魅力を発信します。

主催 臨海副都心「花と緑」のイベント実行委員会（事務局 東京港埠頭株式会社）
共催 東京都花き振興協議会 東京臨海副都心グループ
後援 東京都（オリンピック・パラリンピック準備局）

- ・花壇面積：約2,000㎡ ・使用植物品種数：約200品種
- ・使用植物数：約6万株（平均30株（25～36株）/㎡）
- ・維持管理方法：1週間に1回の灌水と2週間に1回の雑草取りや花柄摘みを公園の指定管理者である東京港埠頭株式会社が担っている。また、遠方の企業様にもご参加頂いていることもあり、2週間に1回のペースで生育調査と報告を実施。



花壇の様子 上段：トライアル花壇 下段：修景花壇

「夏を爽やかに！ スポーツ&フラワーフェスタ」の開催

2020年東京五輪への気運を盛り上げるとともに、臨海副都心の活性化とブランド力向上を図るため、日本の優れた花き園芸技術による夏花壇の展示とスポーツの普及・振興を融合させた参加型イベントを五輪開催期間（7月24日～8月19日予定）中の8月2日（土）・3日（日）に開催しました。

本イベントは、普段花に興味を持っていない方々にも「おもてなしプロジェクト」を広く知っていただく広報宣伝の機会にもなっています。

イベントでは、おもてなし花壇を巡るガイドツアーや花壇にまつわるクイズに答えながら会場を巡るクイズラリーの他、全花壇を巡るスタンプラリーなど花壇を利活用したコーナーを設けることで、愛好家からビギナーまで幅広い層の方々に花壇を観て知っていただく機会を演出しました。

また、公園に隣接する大型商業施設のヴィーナースフォート内では、ヴィクトリーブーケのコンテストや村松氏によるブーケの公開制作などが開催され、イベントに花を添えました。



写真撮影スポットとして人気のオブジェ

【イベントの様子】



花壇ガイドツアーの様子



1 番人気の花壇 ジャパンフラワーセレクション & 日本ハンギングバスケット協会



出展ブースの様子



2 番人気の花壇 赤塚植物園



3 番人気の花壇 東京都花き振興協議会

【ヴィクトリーブーケコンテストの様子】



審査の様子



村松さんによる公開制作



受賞者のみなさん

来年度に向けた課題と改善点

8月下旬に参加団体にお集まりいただき、これまでの取り組みの中で見えてきた課題や改善点について話し合いを行いました。

(1) おもてなし花壇について

ハンギングバスケットやコンテナなどに植栽した植物に対しては、土壌が少ない分、保水性に劣るため十分な乾燥対策が必要で、朝晩2回（各20分）程度の自動灌水が有効でした。地植えをした植物では、浅根性のトレニアなどは乾燥に弱いため、地植えで使用する際は土を乾燥させない工夫が必要となるため、むしろ灌水装置を設置したハンギングやコンテナ向きだと確認しました。

また、メイン会場ではないですが、池を修景することを目的にトライアルとして試験をしていた水上花壇のコンテナ（底面給水方式）では、池の水に含まれる塩素の影響で植栽した植物（サンパチェンスやオリヅルランなど）の生育が悪く、葉が委縮もしくは変色するような状況でしたので、塩素濃度調整もしくは塩素に強い植物選定が必要だと確認しました。

(2) イベントについて

開催の両日ともに環境省の熱中症予防情報で「嚴重警戒」もしくは「危険」が発令される気象条件となったため、目的を持って出向く予定であった人でさえ外出を控えられた影響で、参加者が予想を下回った。このことより、来年度開催に向けては開催日時の再検討を行うほか、園芸愛好家や専門家へ情報が浸透するよう、専門誌などへの広報強化に努める必要があると確認しました。

来年に向けたスケジュール

- ・ 11月頃 今年度の振り返りと、来年度に向けた改善策に関する調整会を開催
- ・ 2月下旬 おもてなし花壇の制作に関する説明会開催及び参加団体の募集

今年が初めての取り組みにもかかわらず、多くの企業や団体にご協力を頂き、おもてなし花壇の展示とイベント開催を実現することができました。また、来年に向け、継続の希望の他に新たに参加を希望される方からの問い合わせもあり、皆さまの関心の高さを肌で感じております。これからも、皆さまと一緒にプロジェクトを進めて参りますので、ご協力をお願い致します。